学習内容報告書 フォーマット

学校名	玄海みらい学園　前期課程
授業者	辻　麗華

1.　単元計画

1-1.　単元名

うみとなかよし　　～　おきにいりの　うみのいきもの　～

1-2.　学年

第１学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科（図画工作科とも関連をもたせる）

1-4.　単元の概要

生活科学習指導要領生活の内容（７）「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定したものである。生き物と触れ合う機会が減ってきている環境で生活している子ども達にとって、生き物に親しんだり、大切にしたりする機会の必要さを感じて本単元を設定したものである。特に本教材では、海の生き物を観察したり調べたりする活動を通して、海や海の生き物への関心を高め、海の生き物の多様性に触れることや海に親しむことをねらいとした。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

海に親しみ、海の生き物に触れながら見つけたことや気付いたことを友達に伝えることを意識させたい。「海の生き物について知ろう」では、図鑑や海の生き物 DVD の活用、バス旅行での九十九島水族館見学などを通して、海の生き物の多様性に気付かせたい。「お気に入りの海の生き物を紹介しよう」では、自分の「お気に入り」の海の生き物について調べたり、発表したりさせる。このことによって、友達に伝えたいという気持ちを高めたり、自分や友達の良さに気付いたりすると考え、「お気に入りの海の生きもの発表会」を設定したい。その発表会では、自分の好きな海の生き物の名前と特徴を記録したカードを広用紙に貼らせ、全体で共有することができるような場となるように配慮したい。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

海の生き物を観察したり調べたりして、海の生き物の多様性に触れ、親しむとともに、気付いたことなどを表現する力を育む。 ・海の生き物やそれらの育つ場所に関心をもち、進んで生き物を探したり、親しんだりして大切にする。 （生活への関心・意欲・態度） ・海の生き物の特徴や育つ場所について考えたり、気付いたりしたことを表現する。 （活動や体験についての思考・表現） ・海の生き物の特徴や生き物への親しみが増した自分・友達の良さに気付く。 （身近な環境や自分についての気付き）

1-7.　単元の展開（全６時間＋課外）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	○海の生き物について、教師がミズダコを例示し、色や形、動きや気づいたことについてまとめる。	・どこを見れば生き物の特徴がとらえることができるか、わかりやすく具体的な助言を行う。 【評価の観点】生活への関心・意欲・態度
2	○メディアセンター（図書館）の図鑑を使った調べ活動や海の生き物 DVD の視聴を通して、「お気に入りの生き物」を探す。	・わかりにくい記述や読めない字がある場合は適宜助言する。 【評価の観点】身近な環境や自分についての気付き 【使用教材】海洋生物図鑑、付録 DVD
3	○バス旅行の見学先（九十九島水族館「海きらら」）について下調べを行う。	・見学への意欲が高まるような言葉かけや、例示する生き物の画像を準備しておく。 【評価の観点】生活への関心・意欲・態度 【使用教材】九十九島水族館「海きらら」HP
課外	○下調べしたことをもとに、九十九島水族館「海きらら」の見学をする。	【見学先】九十九島水族館「海きらら」（長崎県佐世保市）
4・5	○「お気に入りの生き物」について、発表会で使用する「おきにいりカード」を作成する。	・「しょうかい」の部分に必ず、「どうして自分はその生き物を選んだか」という理由を記述するように促す。 ・図鑑の言葉を１年生の友達に伝えるということを前提に、分かりやすい表現をするように促す。 ・「友達に伝えたい」という気持ちを高めるような声かけを行う。 【評価】活動や体験についての思考・表現

6	○「お気に入りの海の生き物発表会」を通して、友達が調べた生き物の特徴やそのよさに気付く。	・電子黒板を用いてカードを拡大表示して、多くの気付きが出るような工夫をする。 ・発表した後、カードを模造紙に貼付させ、発表後も他の児童が見られるようにする。 ・感想交流の時間を確保する。 【評価の観点】 【使用教材】電子黒板、「おきにいりカード」

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　6　時間中の　6　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　／ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

「おきにいりのいきものカード」を使って、お気に入りの海の生き物について友達に紹介することができる。

（活動や体験についての思考･表現）

2-3.　本時の展開（評価規準：◎…おおむね達成、□…達成不十分な児童への指導）

主な学習活動 ／ 反応	教師の指導・支援 ／ 評価の視点（方法）
（1）海にどんな生き物がいたかを思い出す。 ・「海の生き物クイズ」に答える。	（1）「海の生き物クイズ」を出す。 ・電子黒板に、バス旅行で行った「海きらら」にいた海の生き物の写真を提示し、どんな生き物がいたか振り返らせる。 ・クイズ形式にすることで、海の生き物への関心を高める。
（2）「めあて」を提示する。	（2）前時までに用意した「いきものカード」を見せながら、本時の活動内容を知らせる
「おきにいりのうみのいきもの」をしょうかいしよう	
（3）「お気に入りの海の生き物」を友達に紹介する。 ・お気に入りの海の生き物についての紹介の練習をする。	（3）一人ずつ自分のお気に入りの海の生き物について紹介させる。 ・練習する時間を設け、自信をもって友達にお気に入りの海の生き物を紹介できるようにする。
・自分のお気に入りの海の生き物について、一人ずつ発表する。	・「いきものカード」を電子黒板に表示する。 ・発表した後は、カードを広用紙に貼らせ、発表後も他の児童が見られるようにする。 ・同じ生き物を紹介したり、似ている内容があったりしたときも、一人一人調べたことを尊重し、最後まで発表させる。 ・カードを貼った後、感想交流の時間を取る。

（4）学習の「まとめ」をする。 ・海にはいろいろな生き物がいて、おもしろい。 （5）本時の「ふりかえり」を行う。 ・友達の発表を聞いて考えたことをワークシートに書き、グループで伝え合う。	（評価規準） ◎：「いきものカード」を使って、お気に入りの海の生き物について友達に紹介したり、友達の発表を聞いて考えたりすることができる。 □：「いきものカード」の内容を一緒に読んだり、お気に入りの生き物を見つけたときを想起させたりして、友達に思いが伝わるようにする。 （4）黒板に貼ったカードがどこに集まっているか考えさせたり、たくさんの海の生き物が紹介されたことを思い出させたりする。 （5）友達の発表を聞いて、気付いたことや考えたことなどをワークシートに書かせる。 ・書いたことをグループで発表させることで、気付きが増えたり、友達の良さに気が付いたりできるようにする。

3.　今回の活動の自己評価

・メディアセンター（図書館）の蔵書である図鑑やDVDを使用したことで、自分が今まで知らなかった海の生き物の生態やその多様性に気付かせることができた。
・「海の生き物クイズ」をスライドショー形式で準備していたので、児童の反応やつぶやきが多くみられ、海の生き物への関心を引き出すことができた。
・十分に調べ活動や見学の時間を確保することができたので、自分のお気に入りの生き物について作成したカードを、「友達に分かりやすく伝えたい」という気持ちを高めた上で、自信をもって発表することができた。

4.　今後の課題

・教材として使用した書籍（図鑑）の表記や漢字の読み方などで活動が滞りがちになる児童がいたため、事前に教師で（または、図書館司書の協力を得て）必要な部分だけを抜粋して児童に選ばせるという手立てをとることも必要だと感じた。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記なし